



目的を持った一連の流れをもたせた活動

平成27年度初任者研修（全県宿泊研修）が、7月22日（水）から4回に分けて本校を会場に実施されました。今回の初任者研修は、教育活動における体験活動の位置づけやねらいを明確にした体験活動の設定の仕方を習得するとともに、本校で実施した体験活動プログラム（「日本の伝統色を探そう」「星空観察」「自然物クラフト」「隠れ家づくり」「水辺の調査」）を核にしたプログラムデザインを班ごとに作成し、それをもとにポスターセッションや全体発表会で交流を図りました。

初日に、本校の指導主事が自然学校におけるプログラムデザインについて講義しました。その概要を紹介します。

1 プログラムデザインとは…

「思いをカタチにすること！」 具体的に落とし込んで構成されたものが“プログラム”

(1) プログラムデザインで大切なこと

▲子どもたちが喜びそうなアクティビティを羅列して配置するだけでは、よいプログラムとは言えない。

◎最も大切なことは、自然学校などを通して、「何を感じて、何を考えてほしいか」「子どもにどんな力をつけてほしいか」という自然学校のねらいやコンセプトを指導者が明確に持つということ。そのためには、活動後の子どもたちの具体的な姿をイメージすることが大切。これがないと子どもたちは「楽しかった」「つらかった」などといった単純な感想しか持たない。

◎プログラムにねらいやコンセプトに沿った一連の流れ（ストーリー性）や“つながり”があるということ

(2) プログラムデザインの手順（4段階）

第1段階 コンセプトを明確にする前の情報整理 視点は3つ

<子ども>

「学年・学級の実情や実態の把握」「興味・関心・意欲」「健康・体力」 など

<学校・保護者・地域>

「学校教育目標・教育課程・年間指導計画・学年・学級目標」

「学校・保護者・地域の実情を踏まえて、子どもに望むもの」 など

<社会全体>

「社会の動向、情勢」「学習指導要領」「ひょうご教育創造プラン、指導の重点」「各種実施要項（自然学校推進事業実施要項、環境体験事業実施要項など）」

※以上3つの視点からの様々な情報と教師の思いを整理したり共有化したりしてねらいやコンセプトを明らかにする。

第2段階 資源の整理

デザインしようと思っている様々な資源を整理し、実施の可否や可能性について検討する。

※資源とは、主に5つ…「施設（設備、備品）」「自然（状態、特色、実施季節）」「地域文化・産業」「人材（引率教員、外部指導者、指導補助員）」「資金（予算、交付金や補助

金、個人負担金)」

第3段階 アクティビティの組み合わせ → 大切にしたいこと4つ

◎アクティビティのねらいや内容がプログラムのねらいやコンセプトとの関連があるか

(例) プログラムのねらいが「協力」ならば、「協調性を高める」や「信頼関係づくり」がねらいとなる野外炊事や隠れ家づくりは関連がある。しかし、「創造力を豊かにする」というねらいの自然物クラフトは関連があるとは言えない。

◎アクティビティにつながりがあるか。

アクティビティに関連性があると、より効果的である。

(例) 竹細工(箸、スプーンづくり)をし、それを野外炊事で使う。

登山や施設散策をしながら自然物クラフトに使う材料を集める。

◎活動形態(一斉活動、グループ活動、個人活動)は適切か

その活動形態は、プログラムのねらいやアクティビティのねらいを達成するための適切な活動形態か。または、バランスが取れているか。「協力」というコンセプトでありながら、グループ活動などの効果的なアクティビティが極端に少ないということはないか。

◎体験だけで終わっていないか

貴重な体験を言語化するなどして、振り返りや分かち合いの時間を持つことで、自分自身を見つめなおしたり、仲間の思いや考えに触れたりして、深まりを大切にする。

(体験から感じ取ったことを表現する活動は、「言語活動の充実」として、思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動のひとつとして)

第4段階 フィードバック

第1段階から第3段階を振り返り、練り直してブラッシュアップしていく。

2 おわりに(プログラムデザイン全体を通じて大切にしてほしいこと)

(1) 事前・事後指導

・活動前に自然学校などを行うねらいや意義を子どもに理解させ、子ども一人一人に目的や課題を持たせたり、事前に調査したり準備させたりすることで、子どもが意欲を持って主体的に活動できるようにする。また、活動後に子ども一人一人に目的や課題が達成できたか、また、自然体験等で感動したことや気づきを振り返り、発表したりする機会をもつ。

(2) リスクマネジメント

・子どもや参加者の安全のために、考えられる危険を予測し、その防止に向けた手立てを講じておく。また、事故や急病などの緊急時に備えた「緊急体制マニュアル」等を作成し、関係機関や関係者への連絡体制、その手順や役割等を確認しておき、チーム対応できるように共有しておく。

(3) 評価

・PDCA

編集後記

今回は、初任者研修で講義した「プログラムデザイン」の概要を見ていただき、自然学校のプログラムを考えるあるいは、見直すときの参考にしていただければと思います、作成しました。本校のホームページにも、「プログラムデザイン」についてのページがありますので、一度ご覧ください。
(文責 主任指導主事兼指導課長 御栗 康嗣)